

10世紀コンスタンティヌポリスにおける聖母教会と宗教行事*

太 記 祐 一**

The Religious Architectures for Theotokos and Her Feasts in the 10th Century Constantinople

Yuichi TAKI

Constantinople, the imperial capital of Byzantine Empire, was well-known for her religious architectures. Especially churches and monasteries of Theotokos (Virgin Mary) were very important in the religious life. 『The Typikon of the Great Church』, or the Patriarch's hand book for annual functions, provides us vivid information about the religious feasts in the 10th century Constantinople. In this paper, to learn the outline of the cult of Theotokos, the descriptions of the 『Typikon』 on the feast days related to the religious architecture entitled the name Theotokos; the date, reason, place, attendants, etc. are examined. In consequence the importance of 2 big Theotokos- churches, Theotokos ton Chalkoprateion and Theotokos ton Blachernon are expressed in figures. All important feasts for Theotokos, e.g. the Annunciation, held at the church of Theotokos ton Chalkoprateion and the church of Theotokos ton Blachernon throughout the year.

Key Words: Byzantine architecture, Constantinople, cult of Theotokos, the Typikon of the Great Church, religious procession

1. はじめに

ビザンツ帝国においても聖母マリアは、たいへん重要な存在だった。「テオトコス」 - 神をお産みになった御方 - という称号と共に、他の東方正教世界と同様に、絶対に欠かせない存在として常に信仰生活のかなめにあった。事実、文献学者ジャンンによれば、かつてビザンツ帝国の首都コンスタンティヌポリス（現イスタンブル）には聖母ゆかりの宗教施設が130以上もあったという。

しかしこれらに関しては、重要な作品のほとんどが失われてしまったこともあり、総合的な研究がほとんどない。個別の作品に関して、状況に応じてなされる現状の報告が、すべてともいえる。そこで本研究では、当時毎年行われた宗教行事を整理することで、コンスタンティヌポリスにかつて多数存在した聖母に捧げられた宗教施設の位置付けについて考えると共に、数多あった施設の全体像に関する研究の足掛りとしたい。

2. 史料紹介

本研究において主に依拠する史料は『大教会のテュピコン』（以下『テュピコン』とする）である。ここでいう大教会とは総大主教座のあったハギア・ソフィア大聖堂のことである。つまり『テュピコン』はコンスタンティヌポリス総大主教のための儀式のマニュアルで、内容は日々の宗教行事の内容と総大主教の行動がまとめられている。このため本史料はコンスタンティヌポリスにおける当時の宗教儀式を考える上で、避けて通れないものとされる。

本史料は幾つかの写本によって現代まで継承されてきたが、特に重要なものは二つある。イェルサレムの聖十字架修道院の10世紀中頃の写本と、パトモス島の福音書作者聖ヨアネス修道院の9世紀末ないし10世紀初頭の写本がそれぞれである。ここでは二つの写本を比較しつつ聖十字架修道院の写本を中心にまとめた、マテオスの版に

* 平成20年12月19日受付

** 建築学科

表1 『大教会のテュピコン』 に登場する聖母関連の祭りと宗教施設

番号	月	日	移動祭日	施設名	祭の主旨	総大主教	行進の有無	行進の経路
1	9	1		カルコブラティア地区の聖母教会	新年	参加	執行	フォロス 大聖堂
2	9	1		ウルピキオス地区の聖母教会	献堂祭	参加		
3	9	6		第二(デウテロン)地区の聖アンナの館にある聖母教会	献堂祭			
4	9	8		カルコブラティア地区の聖母教会	聖マリアの誕生	参加	執行	フォロス 大聖堂
5	9	9		カルコブラティア地区の聖母教会	聖ヨアヒムと聖アンナの集会			
6	9	22		(小アジア側の)クリュソボリスの聖母教会	聖母の集会			
7	10	1		キュロス地区の聖母修道院	福者ロマンノスの記念祭			
8	10	4		(小アジア側の)オノラトス地区の聖母教会	聖母の祭			
9	10	9		キュロス地区の聖母修道院	聖アンナと聖エリサベトの集会			
10	10	16		聖モキオス教会側の小公園(パラデシオン)の聖母教会	聖母の祭			
11	10	23		カルコブラティア地区の聖母教会	聖ザカリヤと聖シメオンノ 献堂祭			
12	10	24		ブラケルナイ地区の聖母教会	殉教者アレタスと4253人の仲間			
13	10	26		ブラケルナイ地区の聖母教会	740年の地震の記念	参加	執行	フォロス 大聖堂
14	11	7		カルコブラティア地区の聖母教会	聖アテノドロス記念祭			
15	11	9		聖モキオス教会側の小公園(パラデシオン)の聖母教会	聖母の記念日			
16	11	9		ブラケルナイ地区の聖母教会	献堂祭			
17	11	19		女輔祭(ディアコニッセ)地区の聖母教会	献堂祭			
18	11	21		カルコブラティア地区の聖母教会	聖マリアの奉献	参加	執行	大聖堂
19	12	8		牡牛(タウロス)広場の側の代官(クラトル)地区の聖母教会	献堂祭			
20	12	9		大教会の側のエヴラニス地区の聖母教会	聖アンナ懐妊			
21	12	18		カルコブラティア地区の聖母教会	献堂祭	参加	執行	大聖堂
22	12	26		ブラケルナイ地区の聖母教会	聖母の集会：ソロスにて		執行	フォロス 大聖堂
23			降誕祭の次の日曜日	カルコブラティア地区の聖母教会	父ヨセフ兄弟ヤコブ、ダビデ王の記念祭：聖ヤコブの堂		執行	大聖堂
24	12	29		カルコブラティア地区の聖母教会	ヘロデ王嬰児虐殺の記念：ソロスにて			
25	1	8		泉(ベゲノピギ)の聖母修道院	最初の殉教者ステファノスの記念祭			
26	1	8		聖ポリュエウクトス教会の中の聖母教会	最初の殉教者ステファノスの記念祭			
27	1	19		アルマテオス地区の聖母教会	殉教者聖テオドロスの記念祭			
28	1	26		ヘレニアナイ地区の隣りの聖母教会	450年の地震の記念祭	参加	執行	フォロス 大聖堂
29	2	2		カルコブラティア地区の聖母教会	進堂祭の準備	参加	執行	大教会へ
30	2	2		ブラケルナイ地区の聖母教会	進堂祭	参加	執行	フォロス 大聖堂
31	2	3		カルコブラティア地区の聖母教会	聖シメオンの集会(進堂祭と関連)			
32	2	10		アルマテオス地区の聖母教会	聖母の記念祭			
33	3	24		カルコブラティア地区の聖母教会	受胎告知の祭の準備		執行	大聖堂
34	3	25		カルコブラティア地区の聖母教会	受胎告知	参加	執行	フォロス 大聖堂
35	4	30		カルコブラティア地区の聖母教会	主の兄弟ヤコブの集会			
36	5	4		カルコブラティア地区の聖母教会	スキュトボリスの殉教者の集会			
37	5	5		キュロス地区の聖母修道院	献堂祭			
38	5	13		女輔祭(ディアコニッセ)地区の聖母教会	聖母の記念祭			
39	5	15		古城塞(ペリテキスマ)の聖母教会	聖母の記念祭			
40	5	19		キュロス地区の聖母修道院	バトリキオスとブルセと仲間の記念祭			
41	5	23		ソフィアナ地区の聖母教会	聖母の記念祭			
42	6	8		ソステニオンの聖母教会	聖母の記念祭			
43	6	16		エウドキアナ地区の聖母教会	聖母の集会			
44	6	25		ブラケルナイ地区の聖母教会	サラセン包圍(677年)の記念	参加	執行	フォロス 大聖堂
45	7	2		ブラケルナイ地区の聖母教会	聖母のローブの移管	参加	執行	聖ラウレンティオス
46	7	9		泉(ベゲノピギ)の聖母修道院	献堂祭	参加	執行	ベゲ門 聖モキオス
47	7	18		カリストラトス地区の聖母教会	献堂祭			
48	7	21		アルマテオス地区の聖母教会	聖母の集会			
49	7	22		牡牛(タウロス)広場の側の代官(クラトル)地区の聖母教会	マグダラのマリアの記念祭			
50	7	25		新列柱通りの側のバギディオンの向いの聖母教会	聖処女の集会			
51	7	28		ビグレんティオス地区の聖母教会	クンティアノス、ダダス、マクシモス、カッリニコスの集会			
52	7	28		女輔祭(ディアコニッセ)地区の聖母教会	献堂祭			
53	7	29		プロモトス地区の側の聖母教会	献堂祭			
54	7	31		ブラケルナイ地区の聖母教会	献堂祭			
55	8	2		ビグレんティオス地区の聖母教会	クンティアノス、ダダス、マクシモスの遺物の招聘記念			
56	8	7		ブラケルナイ地区の聖母教会	包圍(626年)の記念	参加	執行	翼の門 大教会
57	8	8		(小アジア側の)マリナキオス地区の聖母教会	教会内ヨアンニスの館の献堂			
58	8	15		カルコブラティア地区の聖母教会	聖母の被昇天の準備	参加	執行	聖エウフェミア
59	8	15		ブラケルナイ地区の聖母教会	聖母の被昇天	参加	執行	聖エウフェミア
60	8	16		イェルサレム地区(黄金門側)の聖母修道院	アラブ包圍(717-718)と地震(542年)の記念	参加	執行	黄金門 大教会
61	8	16		イェルサレム地区(黄金門側)の聖母修道院	聖ディオメデスの集会			
62	8	17		アルマテオス地区の聖母教会	聖母の記念祭			
63	8	19		イェルサレム地区(黄金門側)の聖母修道院	証聖者マクシモスと殉教者ディオメデスの集会			
64	8	28		貝の丘(ピンヌロフォス)の聖母教会	聖母の記念祭			
65			五旬節第5土曜日	ブラケルナイ地区の聖母教会	ベルシャと蛮族の包圍：ソロスにて	参加		
66			復活祭の火曜日	ブラケルナイ地区の聖母教会	聖母の記念祭	参加	執行	大教会
67			復活祭の水曜日	カルコブラティア地区の聖母教会	聖母の記念祭	参加	執行	大教会
68			復活祭第2週の月曜日	カルコブラティア地区の聖母教会	聖母の記念祭	参加		
69			聖霊降臨祭の次の月曜日	ブラケルナイ地区の聖母教会	地震の記念	参加	執行	フォロス 大聖堂
70			聖霊降臨祭の次の土曜日	カルコブラティア地区の聖母教会	聖母、聖ヨアヒム、聖アンナの集会			
71			聖霊降臨祭第2週の水曜日	古岩壁(パライア・ベトラ)地区の聖母教会	聖母の集会		執行	フォロス 大聖堂

従い作業をおこなう。

なお本文全体は二つの部分からなる。前半はビザンツ時代の元日にあたる9月1日から始まる365日の日付の固定された祭日・行事の記述である。後半は復活祭を中心とする、毎年日付の移動する祭日の説明となっている。

3. コンスタンティヌポリスにおける聖母教会

1200年以上にわたって帝国の首都だったコンスタンティヌポリスには、前述の様に130におよぶ聖母に捧げられた宗教施設があった。このうち『テュピコン』に登場するものは全部で28となる。そのうち3棟はマルマ海の対岸、小アジア側にある。またこれらが舞台となる宗教行事は71件が記されている[表1]。前述のように当時は9月1日をもって新年としたため、本表でもそれに従っている。この71件を舞台となる施設別に数えると、一番多いのがカルコプラティア（ハルコプラティア）地区の聖母教会で19件、ブラケルナイ（ヴラヘルニ）地区の聖母教会が11件で、5件以上の祭日で舞台となるのはこの二つの施設のみである[表2]。

さてこれら71の祭日について、本資料が総大主教の次第書であることに着目し、総大主教の参加について言及があるものを抽出すると22件となる。また10世紀のコンスタンティヌポリスにおいて、主要な宗教祭日には大規模な聖体行列が執り行われたことが知られている。そこでこの71件の行事から、聖体行列に関して記述のあるものを拾い出すと20件となる。このうち両方で重複がある

表2 『テュピコン』における聖母関連の施設と使用頻度

施設名	全登場回数	重要な祭日
カルコプラティア地区の聖母教会	19	11
ブラケルナイ地区の聖母教会	11	10
アルマティオス地区の聖母教会	4	
キュロス地区の聖母修道院	4	
イェルサレム地区(黄金門側)の聖母修道院	3	1
女輔祭(ディアコニッセ)地区の聖母教会	3	
泉(ベグ/ビギ)の聖母修道院	2	1
牡牛(タウロス)広場の側の代官(クラトル)地区の聖母教会	2	
聖モキオス教会側の小公園(パラディシオン)の聖母教会	2	
ビグレンティオス地区の聖母教会	2	
プロタシオス地区の聖母教会	2	
ウルピキオス地区の聖母教会	1	1
エウドキアナ地区の聖母教会	1	
貝の丘(ピンヌロフォス)の聖母教会	1	
カリストラトス地区の聖母教会	1	
ソフィアナ地区の聖母教会	1	
古岩壁(バライア・ペトラ)地区の聖母教会	1	1
古城塞(ペリテイキスマ)の聖母教会	1	
新列柱通りの側のバギディオン地区の向いの聖母教会	1	
聖ポリュエウクトス教会の中の聖母教会	1	
ソステニオンの聖母教会	1	
大教会の側のエヴラニス地区の聖母教会	1	
第二(デウテロン)地区の聖アンナの館にある聖母教会	1	
プロモトス地区の側の聖母教会	1	
ヘレニア地区の隣の聖母教会	1	1
(小アジア側の)オノラトス地区の聖母教会	1	
(小アジア側の)クリュソポリスの聖母教会	1	
(小アジア側の)マリナキオス地区の聖母教会	1	
総計	71	26

重要な祭日：総大主教が参加するか聖体行列が執行される祭日の回数

表3 聖母関連の祭日と総大主教および聖体行列の関連

	聖体行列が執行される祭日	聖体行列は執行されない祭日
総大主教が参加する祭日	16回	6回
総大主教は参加しない祭日	4回	45回

もの、すなわち総大主教も参加し聖体行列もおこなわれるもの16件となる。同様に総大主教が参加するが聖体行列はおこなわれないものは6件、逆に聖体行列はおこなわれるが、総大主教は参加しないものは4件となる[表3]。そして聖体行列の執行と総大主教の参加のどちらかが記述されているものは、26件となる。

この26件は、おそらく聖体行列の執行や総大主教の参加といった点から考えて、特に壮麗な式典がおこなわれたと想像できる。またそれゆえに特に重要視されていた祭日であるとみてよいだろう。これら重要な祭日の舞台となる施設をみるとカルコプラティアが11件で一番多く、ブラケルナイが10件で続く。残りは五つの施設が1回づつとなる[表2]。つまりこの二つの聖母教会は、他の教会よりも重要な祭日に使用される頻度が、圧倒的に多い。なおこれらの施設のおおよその位置を[図1]に示す。

4. 二つの聖母教会と祭日

前節でみたように『テュピコン』の記録を概観したところ、カルコプラティアとブラケルナイの二つの聖母教会が聖母に捧げられた宗教施設の中で特筆すべき位置にいることが明らかになった。そこで特に重要な祭日と思われる26件について、祭日の内容を検討する[表4]。なお祭日の名称に関しては、幾つかの異なる翻訳がみられるが、本稿においては、我々にとって馴染が深いと思われるカトリック系の訳語を主に使用する。ただし「神のお告げ」に関しては「受胎告知」の方が、より馴染が深いと思われるため、統一性という点からは問題があるが、こちらを使用する。また比較的重要度の低い祭に関しては、『テュピコン』の記述に従っている。

まず聖母に関する重要な祭日を見ていくことにする。「聖マリアの誕生」(9月8日)、「聖マリアの奉献」(11月21日)、「主の奉献(進堂祭)」(2月2日)、「受胎告知」(3月25日)、「聖母の被昇天(聖母就寝祭)」(8月15日)の五つが、マリアの生涯と関連付けられる重要な祭日とされる。いずれも12大祭に数えられ、総大主教の下、聖体行列をともなって儀式がおこなわれる。「聖マリアの誕生」と「受胎告知」の祭日に関して、今あらためてここで説明する必要はないだろう。「聖マリアの奉献」は、マリアが生まれて初めてユダヤ教の神殿に詣でたことを記念するものである。同様に「主の奉献」は「進堂祭」ともいわれるが、イエスが聖母マリアとともに生まれて初めてユダヤ教の神殿に詣でたことを記念する。「聖母の被昇天」は「聖母の就寝」ともいい、最期をむ

表4 聖母関連の重要な祭日とその概要

日 付	祭 日	施 設	総大主教の参加	聖体行列の執行
9月1日	新年	カルコプラティア地区の聖母教会		
9月1日	献堂祭	ウルピキオス地区の聖母教会		
9月8日	聖マリアの誕生	カルコプラティア地区の聖母教会		
10月26日	740年の地震の記念祭	ブラケルナイ地区の聖母教会		
11月21日	聖マリアの奉獻	カルコプラティア地区の聖母教会		
12月18日	献堂祭	カルコプラティア地区の聖母教会		
聖誕祭の次の日曜日	父ヨセフ、兄弟ヤコブ、ダビデ王の記念祭	カルコプラティア地区の聖母教会*1		
12月26日	聖母の集会	ブラケルナイ地区の聖母教会*2		
1月26日	450年の地震の記念祭	ヘレニアナイ地区の隣りの聖母教会		
2月2日	主の奉獻の準備	カルコプラティア地区の聖母教会		
2月2日	主の奉獻	ブラケルナイ地区の聖母教会		
3月24日	受胎告知の準備	カルコプラティア地区の聖母教会		
3月25日	受胎告知の祭	カルコプラティア地区の聖母教会		
6月25日	677年のサラセン軍包囲の記念祭	ブラケルナイ地区の聖母教会		
7月2日	聖母のローブ移管の記念祭	ブラケルナイ地区の聖母教会		
7月9日	献堂祭	泉(ベゲ/ピギ)の聖母修道院		
8月7日	626年のペルシャ軍包囲の記念祭	ブラケルナイ地区の聖母教会		
8月15日	聖母の被昇天の準備	カルコプラティア地区の聖母教会		
8月15日	聖母の被昇天祭	ブラケルナイ地区の聖母教会		
8月16日	717年のアラブ軍包囲と542年の地震の記念祭	イェルサレム地区(黄金門側)の聖母修道院		
五旬節第五土曜日	ペルシャ軍と蛮族による包囲の記念祭	ブラケルナイ地区の聖母教会*2		
復活祭火曜日	聖母の記念祭	ブラケルナイ地区の聖母教会		
復活祭水曜日	聖母の記念祭	カルコプラティア地区の聖母教会		
復活祭次の月曜日	聖母の記念祭	カルコプラティア地区の聖母教会		
聖霊降臨祭の月曜日*3	地震の記念祭	ブラケルナイ地区の聖母教会		
聖霊降臨祭次の水曜日	聖母の集会	古岩壁(バライア・ベトラ)地区の聖母教会		

*1 聖ヤコブの礼拝堂が舞台となる。

*2 聖遺物を収めた箱を保管する堂(ソロス)が舞台となる。

*3 同じ日に聖使徒教会へも聖体行列が総大主教の参加で行われる。

かえた聖母が天に昇ることを記念するものである。

これは整理すれば、イエスを産む前のエピソードに関連した祭日ではカルコプラティアの聖母教会が、イエスを産んだ後のものに関してはブラケルナイの聖母教会が、それぞれ舞台となっていることがわかる。

さらに詳しくみていくと、面白いことに気がつく。ブラケルナイが舞台となる二つの大きな祭、「主の奉獻」と「聖母の被昇天」では、準備のための儀式はカルコプラティアの聖母教会でおこなわれている。このときの人々の動きを整理すると以下ようになる。

「主の奉獻」 カルコプラティア ハギア・ソフィア
フォロス(コンスタンティヌス一世のフォルム) ブラケルナイ

「聖母の被昇天」 カルコプラティア ペトリオン地区
の聖エウフェミア修道院 ブラケルナイ

残念ながら2つの祭日では聖体行列の中継点が一致しない。しかしどちらの祭日も、カルコプラティアの聖母教会が重要な役割を果たしている点では、同じである。つまりマリアの生涯にかかわる重要な5つの祭日すべてで、カルコプラティアの聖母教会は儀式に深くかかわっている。

次にブラケルナイの聖母教会が舞台となる他の祭日に、目を転じる。ここで目を引くのが、天災や戦災からの救済を感謝する祭日が多いことである。該当する祭日は、年間10回のうち5回である。他に同様な主旨の祭日は1

月26日と8月16日に、ヘレニアナイ地区の隣りの聖母教会とイェルサレム地区(黄金門側)の聖母修道院で、それぞれおこなわれるのみとなっている。

5. まとめ

まずカルコプラティアとブラケルナイ以外の聖母に捧げられた施設における祭日についてふれる。いわゆる宗教施設の設立記念日ともいえる献堂祭が2件、天災、戦災からの救済の感謝が2件、「聖母の集会」としか記されていないものが1件となっている。つまり二つの聖母教会と比べて、その重要度には著しい差がある。

これに対してカルコプラティアの聖母教会はマリアの生涯と深く結び付いた5つの祭すべてに深くかかわるなど、コンスタンティヌポリスの聖母信仰の中心的役割を果たしていたとみなすことが出来る。このことはカルコプラティアの聖母教会が市の中心部、大宮殿に比較的近い街区に位置し、コンスタンティヌポリス総大主教の大聖堂であるハギア・ソフィア、この都市で最も古い歴史をもつハギア・エイレーネー聖堂と同一の聖職者組織によって運営されていたことと関係があるだろう。

他方、ブラケルナイの聖母教会は都市の西北の端、城壁に接する街区に位置している。この教会は聖母のアイコンと聖母ゆかりの遺物で知られていた。そしてこれらには首都を災いから護る霊力があると信じられていた。これらの宝物ゆえに、ブラケルナイの聖母教会は天災や戦

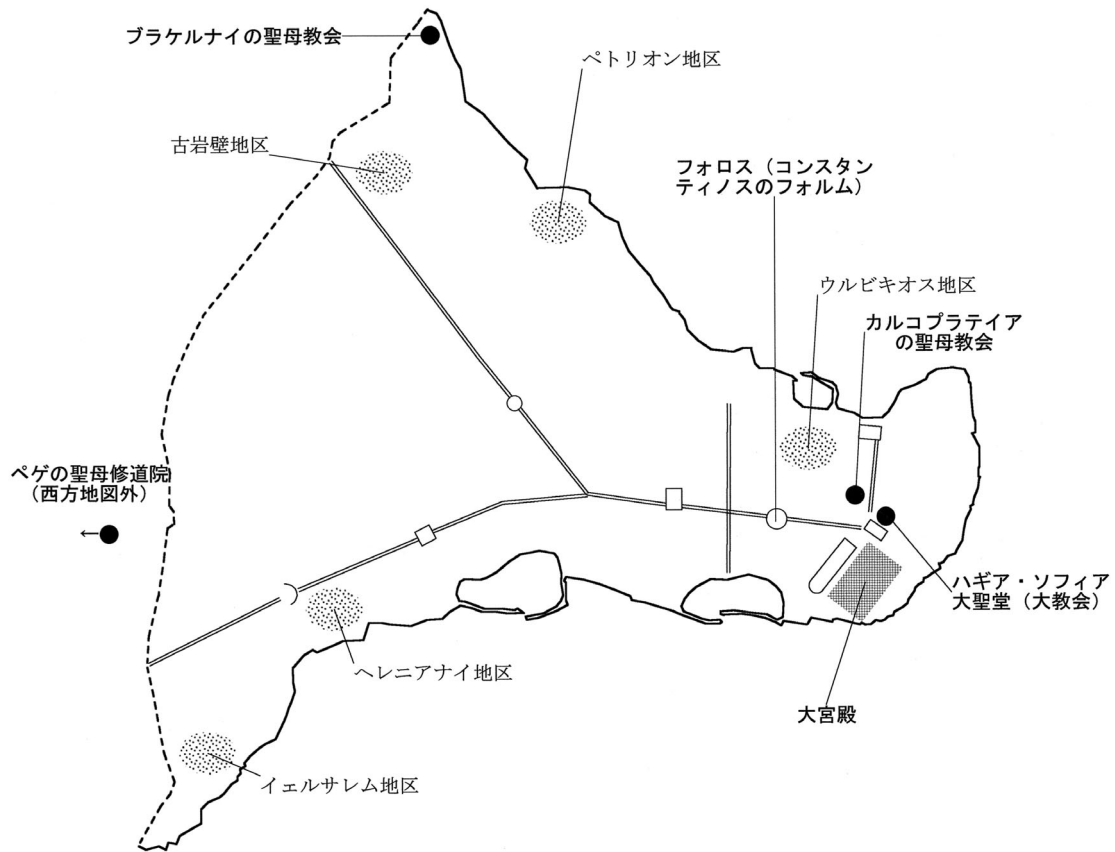


図1 10世紀コンスタンティヌポリスの市街図と聖母に捧げられた主要な施設
[マンゴーおよびマグダリーノから筆者作成]

災からの救済を感謝する祭りと深いつながりをもつに至ったのであろう。さらにまたこの教会がカルコプラテアと並んで重要視され、「主の奉献」と「聖母の被昇天」で使用されたのも、これら宝物と無関係ではないかもしれない。

付記

本稿は2007年度日本建築学会九州支部研究報告会（熊本 2008年3月）において発表するため、準備した原稿に加筆修正したものである。

主要参考文献

Baldovin J.F., *The Urban Character of Christian*

Worship, Roma, 1987.

Janin R., *La géographie ecclésiastique de l'empire byzantin. Première partie. Le siège de Constantinople et le patriarcat œcuménique. Tome III. Les églises et les monastères*, 2^e ed. Paris, 1969.

Magdalino P., *Constantinople médiévale*, Paris, 1996.

Mango C., *Le développement urbain de Constantinople, IV^e-VII^e siècles*, Paris, 1990.

Mateos J., *Le Typicon de la Grande Église*, Roma, 1962-63.

Müller-Wiener W., *Bildlexikon zur Topographie Istanbuls*, Tübingen, 1977.